この人に聞く下田まち遺産。

「外観だけでも和のイメージに」

及川勇次さん（レストラン「カマアイナ」オーナー）　インタビュー松下（建設課）

昨年ペリーロード（下田まち遺産）に新たなテナント施設「ペリーロード蔵」をオープンさせた及川さんに通りへの景観配慮を聞く。

及川勇次　おいかわゆうじ
現在 41 歳。東京生まれ。24 歳の時に下田市に移住。奥様と共に 30 歳でレストラン「カマアイナ」をオープン。昨年、テナントビル「ペリーロード蔵（くら）」を新設したことで、お店を移転。今年７月で１周年を迎える。

松下　現在のお店を建てることになった経緯を教えて下さい。
及川　１６年前に下田に来て、アルバイトを６年やっていました。昔から自分はお店をやりたいという思いがあって、現在の店の目の前にあるテナント（マシューズスクエア）で初めてお店を開きました。お店を続けていた際、目の前に空き地があって、「もったいない、誰かお店でもやればいいのに」と勝手に思っていました。いつしか、自分がそこでお店をやりたくなり、良いタイミングで土地を購入することができ、それで店を建てることになりました。
松下　お店を新たに作る上で、大事にしたことは何ですか。
及川　私たち夫婦の意見は一緒で、ペリーロードの景観に合わせたものが作りたいと思いました。最初から、今のような蔵のイメージがありました。たまたま知り合いになった工務店さんとも意気投合し、設計者もペリーロードが気に入って、「ペリーロードに合わせたデザインをしたい」と話が盛り上がり、とんとん拍子で計画が進みました。
松下　現在のお店のような蔵のイメージはどこから来たのですか。
及川　倉敷なんかが良い例です。川が流れる通り沿いに蔵造りの家やテナントが並んでいる。カタチが違っても、似たデザインや素材を使うことで景観に一貫性があるんです。時には外観だけが蔵造りだったりもするけど、それでもいいと思います。すべて昔の造りにするというのは無理があります。職人はいないし、コストもかかる。下田も外観だけでも和のイメージで作れば良い町並みになると思います。そういった考えもあり、外観を蔵のイメージにしました。
松下　このテナントを計画する上で大変だったことは何ですか。
及川　この辺りは準防火地域で外壁材に木材を使えないんです。このテナントの外壁には木材の板が貼ってありますが、下地に防火材（サイディング）を貼った上で仕上げています。その手間の分でコストがかかる。でも、お店としても見た目が大事だから、そこはこだわりました。外壁の白漆喰も仕上げるまでに６回塗っている。それでもヒビが入る。１年間は乾燥させて、わざとヒビを出させます。そして、また塗る。これだけ手間がかかりましたが、良いものが出来たと満足しています。入口の伊豆石は地元の解体業者から買って自分で運ぶなど、出来ることは自分でやってコストを下げました。
松下　オープンしてからのお客さんの反応はどうですか。
及川　おかげさまで、前よりも集客数が増えました。ペリーロードに合わせた蔵造りにしたことが効いています。観光客は奥まった私の店も覗きに来てくれる。こういったデザインにして良かったと思います。ある程度お金をかけて、お店を仕立てることの重要性を改めて感じました。
松下　最後に、及川さんの大切にしたい下田まち遺産は何ですか。
及川　下田公園の城址です。最初はあまり興味が無かったけれど、色んな方から情報を得る度に凄いと感じました。あれだけ、空堀が綺麗に残っているところはないですから。これからは、ちゃんと整備して欲しい。保存活動している団体にも頑張っていただきたいですね。

「ペリーロード蔵」にみる景観配慮ポイント紹介。

ペリーロード沿いの外観。黒の板塀と瓦、白漆喰等、和の素材がペリーロードの風情と呼応している。

建物入口に敷かれた伊豆石の踏み石。まちなかにも点在する地場産材の伊豆石が敷かれることで、まちとの雰囲気が合う。

建物の雰囲気を作る黒い板塀は、防火構造上使用不可。下地にサイディングを貼った上に板塀で仕上げている。

奥のテナントの木戸はアンティークの蔵戸。重厚な趣はアンティークならではの質感。こうした細部にも心遣いが。

下田まち遺産で「まち」が変わる。

下田登録まち遺産（旧歴史的建造物）の補修工事をお手伝いさせていただきました。

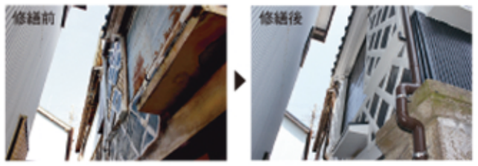
歴史的建造物は歴史的景観を守る上で重要となります。下田市では下田登録まち遺産に認定された建造物に対して、補修の際にかかる費用の一部に対し助成をしております。下記では最近行われた助成物件を紹介します。

事例その１ 雑忠 壁面（なまこ壁）の改修

平２３年９月に下田を襲った台風 15 号により壁面と屋根の一部が破損しました。さらに修繕をしなければ主体構造部に水が入ってしまい深刻な事態となります。下田市としても雑忠の建物は重要と考えており、所有者の修繕に対して助成させていただきました。

事例その２ 土佐屋 庇と壁面改修

昨年の台風１５号による突風で、川沿いの庇が破損してしまました。ペリーロード沿いであり、多くの人の眼に触れる場所です。所有者もそのことを理解されており、足場の確保が難しい工事となりましたが、所有者の修繕に対して助成させていただきました。



事例その３ 安直楼 壁面（なまこ壁）の改修

昨年の台風１５号は安直楼（裏側部分）の外壁に大きな被害をもたらしました。なまこ壁が剥がれ落ちる深刻な事態であり、大規模な修繕工事が必要となりましたが、所有者の理解のもと修繕していただいたため、下田市としても制度上、可能な範囲で助成させていただきました。

下田市の景観を守るために企業にも協力していただいています。

一定の条件に該当する建造物・工作物に対して、下田市では景観配慮の観点から、各種仕様の制限や配慮をお願いしております。下記は、最近の景観配慮を協力していただいた企業の物件です。

事例その１ （株）静岡総合不動産所有 すき家　外観と看板の景観配慮

（株）静岡総合不動産が所有する「すき家 135 号下田店（柿崎）」は小規模のため景観への配慮義務はありません。それでも、下田湾に面していることや、寝姿山の付け根に位置すること、さらに長楽寺と玉泉寺を結ぶ北方領土マラソンのコースであることなどから、下田市から景観への配慮をお願いしたところ、看板の基本デザインや面積を変更し、黒色をより多く使用した意匠にしていただきました。

事例その２ 下田循環器・腎臓クリニック（旧横山クリニック）外観と植栽の景観配慮

今年の４月に高馬に移転した下田循環器・腎臓クリニックは、当初、病院らしく清潔感ある白色の外観にする予定でしたが、下田市から山に囲まれた周辺環境への配慮をお願いしたところ、病院側も自然に調和した四季を感じられるような外観への変更と、建物前面に樹木を植えることで景観に配慮していただきました。